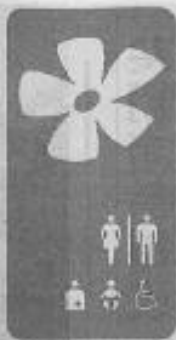


赤ちゃん連れらへ「気軽にいへん」

店頭に共通サイン「多機能」増え、横浜で試み



トイレ貸し出しサイン「オープントイレマーク」©NDC Graphics+NPO Check+Okawa Inc.

お店のトイレ貸します。赤ちゃん連れや障害者の観光客が店舗にある多機能トイレを気軽に借りられるようにするプロジェクトが、横浜で始まった。店舗前におしゃれな共通のサインを掲示すること

で、さりげなくアピールするという趣向。利用者からは「今までありそうでなかった」と好評で、賛同する店舗側は「来店促進につながる」と期待感が高まっている。(三木 崇)

オムツ替えができるベビーシートや車いす対応機能などを備えた多機能トイレは、導入する店舗が増えているものの、知られていないために活用されていないケースが多くあるという。特に横浜中心部に観光に訪れる障害者や子ども連れにとっては、トイレの場所が分からないことが悩みの種となっていた。

トイレ貸し出しサイン「オープントイレマーク」を考案したのは、多機能トイレ情報を共有するサービス「チェック・ア・トイレ」を展開するNPO法人チェック(東京都世田谷区)の金子健一代表理事と、老舗印刷会社の大川印刷(横浜市戸塚区)の大川哲郎社長。



「オープントイレマーク」を入り口に貼る金子さん(右)と大川さん(左)

「気軽にトイレを借りるために、誰にも分かりやすいマークを新たに作ろう」と、真つ白な花のマークが生まれた。登山者が用を足してきたNDCグラフィックすと共に「花摘み」プロジェクト制作を依頼、完成し、くまサイン化したという。

このプロジェクトは、本年度の横浜観光プロモーション認定事業に選ばれ、元町、中華街、山下地区で先行的にスタート。既に9店舗から賛同を得た。来年3月末まで無償で提供することで100店舗を目指す。来年度以降は1枚800円で提供する。

横浜マリンタワーの水田滋盛支配人は「改築後はバリアフリー対応を進めており、多機能トイレの存在を知ってもらえることで大勢の方に訪れてほしい」と期待を込めて、NPO法人「ア・ニ」理事長の服部一弘さんは「事故に遭ってから25年がたつが、このアイデアはありそうでなかったね」と喜んでいる。

オストマイト(人工肛門)・人工膀胱保有者対応などトイレの機能によって、さまざまなバージョンの400枚を作成。賛同店舗はネット上の「チェック・ア・トイレ」の地図にも掲載する。

トイレ貸します。